

「大坂の史跡を訪ねて」

連載14回目

～土佐堀川・堂島川周辺 その4～

おさたに よしはる
長谷 吉治

今回も引き続き、中央区の土佐堀川周辺をご紹介します。

① 懐徳堂跡 中央区今橋3丁目6（日本生命ビル南壁）

淀屋橋から御堂筋を南（本町方面）に進み、今橋三の交差点を左（東）に折れた日本生命ビルの壁に、「懐徳堂旧址の碑」があります。

この地に「懐徳堂」という学問所がありました。

大坂は天領（幕府の直轄地）のため藩校がなかったことから、町人の学問所として享保9年（1724）中井翫庵（しゅうあん）と5人の町人 道明寺屋 富永芳春、三星屋 中村良斎、舟橋屋 長崎克之、備前屋 吉田可久、鴻池屋 山中宗七が学問所の創設に奔走しました。享保11年（1726）、幕府の許可があり、三宅石庵を学主に迎え開校しました。「懐徳堂」という名前は、論語の『君子懐徳、小人懐土』や詩経の『予懐明德』、書経の『万年其永観朕子懐徳』によるという諸説があります。

その後、明治2年の閉校まで数々の優れた人物を輩出しています。

初代学主の三宅石庵、2代目学主の中井翫庵。五井蘭洲、富永仲基、加藤竹里、山片蟠桃、中山正吾、佐藤一斎、上田秋成、頼 山陽などです。町民のための学校として開校されましたが、評判がよく、大坂の各藩の蔵屋敷から武士達も通うようになり、また、席順は武士・町民の区別がなく、遅刻早退お構いなしという自由な学校でした。

明治2年の閉校の折、塾頭の中井寒泉は、

『百余り四十路四とせのふみの宿 けふを限りと見返りていづ』と詠じ別れを惜しんでいます。

大正5年に復興記念会ができ、旧地から離れますが、豊後町に「新懐徳堂」が建てられます。

しかし、戦災により焼失、幸いに書庫は残り、現在大阪大学に保存されています。

大阪龍馬会会長の藤本先生が、4年前、東京芸術劇場、前進座劇場にて『消えた瓦木 富永仲基異聞』というお芝居に出演されました。

この物語の舞台が懐徳堂で、若くして世を去った富永仲基にスポットをあてたものでした。



② 適塾跡

中央区北浜3丁目3

幕府公認の「懐徳堂」に対し、私塾としてたくさん
の優秀な人物を輩出したのが適塾です。
備中足守藩士 緒方瀬左衛門の子 緒方洪庵が
開いたこの塾は、大阪大学医学部の前身でも
あります。
緒方洪庵の号だった適々斎から適塾と名づけ
られました。
緒方洪庵ならびに適塾については、連載10
回目 緒方洪庵墓で詳しくご紹介させていた
だきました。
もともと適塾は、天保9年瓦屋町で開塾しま



したが、狭過ぎたため天保14年、当時は過書町と呼ばれていたこの地の、2建階での商家
(両替商 天王寺屋忠兵衛の持ち家) を買い求め開塾し直しました。

現在も適塾の建物が残っており、昭和39年、国の重要文化財に指定され、昭和55年より
一般公開されています。

休館日は日曜日、月曜日、国民の休日、年始年末12月28日～1月4日。

開館時間は10:00～16:00です。

大阪龍馬会のイベントに「適塾見学」を入れたかったのですが、休館日と重なってしまうため
実現が難しいようです。平日お時間を見つけ、是非一度はご覧いただきたいと思います。

さて、この適塾に入門した門下生は636名。その中から輩出した有名な人は、次のとおりです。

緒方郁蔵：天保9年(1838)適塾開業時に入塾。

大村益次郎：弘化3年(1846)23歳で入塾。

当時は、村田良庵という名でした。

嘉永2年(1849)より塾頭を務めています。

佐野常民：嘉永1年(1848)27歳で入塾。

杉亨二：嘉永2年(1849)に入塾。

伊藤慎蔵：嘉永2年(1849)24歳で入塾。

嘉永4年(1851)より塾頭を務めています。

橋本左内：嘉永3年(1850)17歳で入塾。

大鳥圭介：嘉永5年(1852)21歳で入塾。

長与専斎：安政1年(1854)に入塾。安政5年(1858)に
塾頭を務めます。

福沢諭吉：安政2年(1855)23歳で入塾。

安政3年(1856)に塾頭を務めます。

花房義質：万延1年(1860)に入塾。

高松凌雲：文久1年(1861)26歳で入塾。



緒方洪庵木像

③ 緒方洪庵像 中央区北浜3丁目3

☞②の適塾に隣接する「適塾史蹟公園」内に緒方洪庵の銅像が平成8年(1997)2月に建立されました。緒方洪庵は、文化7年(1810)備中足守に生まれます。16歳の時、元服しその翌年大坂に出てきて、中 天游のもとで蘭学を学びます。21歳、蘭学修業のため江戸へ行きます。江戸では、坪井信道の塾に入塾します。24歳で宇田川榛齋につきます。26歳、故 中 天游の塾で蘭学教授を務めるため、再度来坂します。27歳、長崎修業に旅立ち、この頃から名を緒方三平から緒方洪庵に改めています。そして、29歳、大坂の瓦町にて「適塾」を開塾します。



④ 除痘館跡 中央区今橋3丁目2

☞適塾跡から南へ行き、財団法人 洪庵記念会 緒方ビル前に銘板『除痘館跡』が掛けられています。そこには『大坂の除痘館は、牛痘除痘を行う場所で、緒方洪庵が中心になって嘉永2年(1849)11月7日に古手町(道修町)に開設した。それは種痘がはじめて長崎に渡来した年である。大坂の種痘活動はまことに盛んで、安政5年(1858)4月24日には全国にさきがけて官許を得た。のち万延元年(1860)10月にはこの場所を離れて、当時の尼崎町1丁目(現今橋3丁目)に移って事業を拡張した』と記されています。日本では、天平7年(735)に痘瘡が大流行した記録があり、以後100回に及ぶ流行がありました。計368,162人が感染し、93,050人が死亡しています。緒方洪庵は、医学者として痘瘡予防のための「痘瘡の事業」と「コレラ対策」の二大事業に精力的に取り組みました。特に「除痘館」を中心とした種痘の事業は、緒方洪庵が長年にわたって最も尽力したものです。

